

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立西与賀小学校
1 前年度 評価結果の概要	【学力の向上】学習の知識・技能については定着が見られるようになってきた。さらに、家庭との連携による家庭学習の定着と、思考力・表現力の育成を図る。 【心の教育】地域に広がる挨拶については、向上が見られた。さらに、思いやりのある言葉で他者とつながる力の育成を図る。 【健康・体づくり】生活パワーアップ週間において、生活習慣を見直す意識付けはできてきている。今後も、よりよい生活につなげる自己調整力を継続して育成する。
2 学校教育目標	元氣いっぱい、自分から学び、共に高め合う西与賀っ子の育成
3 本年度の重点目標	【心育で】居心地の良い教室（挨拶・掃除・言葉遣い） 【学び】児童の「なぜ」「知りたい」を大切に学ぶ楽しさを味わえる学びづくり 【体づくり】規則正しい生活と運動 【教職員】業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減を徹底する。

重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組				最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童の知的好奇心を高め、価値のある対話を組み込んだ授業の工夫	○校内アンケートで「授業の中で『なぜ』『知りたい』と思うことがある」と答える児童80％以上 ○校内アンケートで「話し合ったことを自分の考えに生かしている」と答える児童80％以上 ○児童の「なぜ」「知りたい」を大切にした授業づくりをする教師85％以上	・校内研究の内容に沿って職員は授業公開を一人一回以上実施し、授業向上に努める。	B	・2学期末の校内研究アンケートで「授業の中で『なぜ』『知りたい』と思うことがある」と答える児童83％、「話し合ったことを自分の考えに生かしている」と答える児童83％。単元の目標を子供と共有することや対話したことを自分の考えに反映させるような授業を行った成果が出た。 ・2学期末の校内研究アンケートで児童の「なぜ」「知りたい」を大切にした授業づくりをする教師70％。国語科の授業づくりに難しさを感じている職員が多いため、単元づくりの仕方を年度当初に職員で学ぶ機会を設ける。	B	・子供が興味を持つことを探すことも大事であり、言葉理解するには国語力が大切である。 ・「なぜ」「知りたい」は学習意欲のきっかけになり、対話したことを自分の考えに反映されるような授業をされているので成果は出ていると思う。 ・子供に「なぜ」「知りたい」という意識を持たせることは学習の基本であり、学校生活はもとより日常生活、特に家庭学習による影響も大きいと思う。	・学び部
	○主体的に家庭学習に取り組む態度の醸成	○家庭学習の習慣化ができている児童75％以上 ○学習用具の準備ができている児童75％以上	・毎週末、家庭学習で自主学習に取り組ませる。内容のよいものを提示し、ともに学びを高める環境づくりをする。 ・各学年に目安となる家庭学習の時間（低30分 中45分 高60分）を示し、生活パワーアップアンケートで確認し、その都度改善を図る。	B	・よい自主学習のノートを紹介することで、自主学習の内容の高まりが見られた。しかし、家庭学習の習慣化は70％となり、目標に届かなかった。ドリル学習以外のタブレットの活用法を考えたが、家庭学習の時間を充実させたい。 ・学習用具の準備ができている児童は86％で、目標を達成できた。個人差があるので、引き続き指導していく。	B	・行動の改善、習慣化は日々のことで変化や向上がつかみにくい。子供自身が意識することを記録する形に改善されることで良い取組になる。 ・タブレットを活用し、家庭での学習時間を見える可するなど自主学習の充実を図ることができている。	・学び部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○保護者アンケート項目「学校は子どもたちに人権意識や思いやりの心を育てているか」の評価達成率を90％以上	・家族を活用した「おうちde道德」の取り組みで、児童の心の成長に目を向けてもらう機会を設ける。 ・フリースペースや授業参観の際に、内容項目「親切・思いやり」「友情・信頼」など[B主として人とかかわりに関すること]に絞って道德の授業を公開する。	A	・11月に「おうちde道德」の取り組みを行い、道德の教科書を持ち帰って家庭で「親切・思いやり」の項目について話をする機会を設けた。また、全校の取り組みの感想を取りまとめ、配布して共有することができた。 ・保護者アンケート項目「学校は子どもたちに人権意識や思いやりの心を育てているか」の評価達成率は95.4％であった。授業参観での道德の授業公開やおうちde道德の取り組み、日々の指導などが肯定的な意見に繋がっていると考ええる。今後も相手の気持ちを考えることの大切さを意識した指導をしていきたい。	A	・「親切・思いやり」について、親子で考える機会を与えるのは子供はもちろん、親にとってもいいことだと思ふ。 ・常識・知識・意識の違い、差を埋める努力・指導をされていると感じる。	・心育で部 ・道德教育推進教員
		○児童アンケート項目「進んであいさつをしている」「友達に優しくしている」の評価達成率を90％以上	・学期はじめの生活目標を「あいさつ」に絞り、各学級の具体的な取り組みを児童と考え、実践しようとする意欲につなげる。 ・学校全体で「あいさつ」に取り組めるように、代表委員会で提案し取り組みができるようにする。	B	・児童アンケートの結果は、「進んであいさつ」が90％、「友達に優しく」が95％と児童の達成率は悪くなかった。実践しようとする意欲は高まっているように思うが、実際に達成できているかと問われると、学年によって差があったり、個人差があったりする。 ・学校全体では、代表委員会で話し合い、あいさつ名人を決めた。学校全体で取り組むという点で効果はあったと思う。	B	・子供が生活・行動のことを学校・家庭で自ら決めていく自律性を推し進めていけるといいです。 ・あいさつはよくしていると思う。青バトの音楽が聞こえると手を振ってくれる子供もいて嬉しうです。	・心育で部 ・生徒指導担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止のための取り組みができている」と回答した教員95％以上	・毎月1回保護者向けの「いじめのいのちのアンケート」を実施。児童向けに「おしえてねアンケート」を実施し、児童の気持ちの状態の把握に努める。 ・いじめ未対応0（ゼロ）にするため、アンケート等に記入があった場合は、その日のうちに学年主任が管理職に報告し対応する。 ・定期的に教育相談協議会などで、支援の必要な児童について学校全体で情報交換を行い、共通理解を図る。	A	・毎月保護者向けのアンケートや児童向けアンケートを実施したり、2回目の教育相談週間を設けることで児童の気持ちを把握することに努めた。 ・アンケートの早期対応について取り組みができていたと答えた教職員は94％であった。内容によっては解決に時間のかかる問題もあると考えられる。 ・毎月の生徒指導・教育相談協議会で支援の必要な児童について共通理解を図り、支援の方法を職員で話し合った。	A	・保護者向けアンケート、児童アンケートによって子供の抱える問題の把握がされている。 ・子供の気持ちを把握し、共通理解を図るため早期対応が評価できる。	・生徒指導担当 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90％以上	・夏休みの研修などで職員全体にSGから児童生徒の困り感を取り除くための研修を受けてもらう。 ・全校集会やほめほめタイムなどを生かし、全職員で、児童の姿を価値づける。 ・キャリアパスポートを活用し、学級活動等を通して目標をもたせる授業を行う。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」は90％で、当初の目標は達成することができた。「ほめほめタイム」は1/5程度が未達成（1月末現在）なので、達成できるようにしたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」の問いに肯定的な回答をした児童は94％。将来の夢をもつ児童は増加した。	B	・「ほめほめタイム」や全校集会などで個人をほめることで自信となり、自己肯定感の向上につながっていると思う。 ・「ほめほめタイム」は良い取組で続けてほしい。 ・10％の子供が認めてもらえていないと思っているのが少し残念です。	・生徒指導担当 ・教育相談担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康によい食生活をしている」児童生徒85％以上 ○「早寝、一人で起きる、朝ごはんを食べる」ができた児童を75％以上にする。	・保健や学活の時間に栄養職員と連携した学習を行うことで、児童への啓発を図る。給食便りで保護者への啓発を図る。 ・生活パワーアップの集計結果に合わせて、保護者への啓発を図る。	B	・「健康によい食生活をしている」と答えた児童が90.9％。好き嫌いは多少あるが、頑張って食べようと努力することができているが、「早寝、一人で起きる、朝ごはんを食べる」は76.9％と中間評価より下回った。特に「一人で起きる」は難しいようだった。今後は、給食指導と連携し、食習慣の大切さを学び基本的な生活習慣を確立を図る必要がある。	B	・食を食べることの大切さが伝わり、よく指導されている。 ・健康、体力づくりの基本は、食・睡眠・運動なので、学校で楽しく過ごせるという目標が立つように声掛けもいけいではと思う。	・体づくり部 ・食教育担当
	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「安全に関する資質・能力の育成」	①生活パワーアップ週間の際に、「家でのテレビ・ゲームの時間が1時間以内」の児童を50％以上 ②児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。	・保健や学活の時間に養護教諭と連携した学習を行うことで、児童への啓発を図る。保健便りで保護者への啓発を図る。 ・生活パワーアップの集計結果に合わせて、保護者への啓発を図る。 ・交通安全集会、交通安全教室、帰りの塾の帰りに取り組み、交通安全の意識を高めさせる。また、PTAの交通安全教室への参加を奨励する。	B	・生活パワーアップ週間の結果、「家でのテレビ・ゲームの時間が1時間以内」の児童が65.2％だった。生活パワーアップ週間以外でも決められた時間が守れるよう指導を続けていきたい。 ・年間を通して交通事故が2件起きている。幸い大きな事故にはつながらなかったが、一歩間違うと大きな事故につながっていた可能性がある。毎年、交通安全教室を行っているが、各学級で特別活動の時間での取り組みや、学年集会などで再度確認を行い、交通安全への意識を高める必要がある。	B	・家庭でのことが大きく関わり、生活習慣などは保護者への啓発を図る必要がある。 ・PTAでもスマホ、YouTubeなどからの生活習慣の乱れについて研修会等を行い、保護者、先生方、子供たちと一緒に学ぶことを模索したい。 ・また、地域も含めた交通安全教室や危険箇所把握の工夫をしていきたい。	・体づくり部 ・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・個々の職員が、業績評価に時間外勤務削減の方策を記述する。 ・業務の適正化、平準化ができていくが見直しをする。 ・各部会等での振り返りを生かして、すでに来年度の計画を策定する。 ・会議や研修等のタイムマネジメントに努める。 ・定時退勤日を徹底する。（毎週金曜日）+1日。	B	・下期は、行事を多く実施した10月に時間外45時間以上の職員が出た。しかし、上期に比べ時間外勤務時間は減り、アンケートでは70％の職員がタイムマネジメントに努めていると回答している。 ・会議の延長等も少なく、定時退勤日以外でも早めに勤務を終える意識が定着しつつある。個々で業務改善の意識を常に持つことが、学校全体の業務改善につながることを今後も伝えていく。	B	・見守り、声掛け、支援、研修、指導等、本当にご苦労様です。 ・先生方も努力されていると思う。 ・休日なのに地域の行事に先生方も参加いただき感謝です。 ・働き方改革は保護者の意識を改善することも必要。PTAからも発信していきたい。	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員90％以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・必要に応じてケース会議を開催し、関係者間での情報共有を行う。	A	・学校評価のアンケートの結果、昨年度と比較して特別支援教育に関する知識や技能が増えたと感じた職員が100％であった。ケース会議や専門家を招聘した研修会の他に、生徒指導・教育相談協議会でミニ研修会を定期的に開いたことが、職員の専門性の向上につながったと考える。来年度も継続していきたい。	A	・ミニ研修会はすばらしいと思う。先生方の努力に頭が下ががる。授業参観で専門的知識を生かされた指導をされていると感じた。 ・通常学級との交流はよいと思う。通常学級の先生方がもう少し関わられるようになるとさらによい。 ・教師増が要望項目ですね。	・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組				最終評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力し、進んで地域に関わろうとする気持ちを高める教育活動	◎地域の行事等に1回以上参加した児童65％以上	・公民館と連携し、児童が地域行事等に参画しやすい環境を整える。	A	・地域行事に1回以上参加した児童は78％であった。魅力ある行事が多くあり、地域の方々から積極的に児童に関わっていただいている証であると考ええる。今後も公民館等と連携して、学校からの参加呼びかけを継続していく。	A	・地域として子供の興味関心に対応できる行事があればと思う。 ・学校と公民館やまちづくりの方々とうまく連携できている。 ・地域交流を通してチャレンジすることをほめて認め、社会性を高めている。	・管理職 ・コミュニティ・スクール担当 ・キャリア教育担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望				・【学力の向上】ドリルやプリント、タブレットPCを活用し、個人に合った苦手分野を克服することで、学習の知識・技能面を向上させる。 ・【心の教育】定期的に児童の気持ちの状態を把握し、いじめの早期発見、早期対応に向けて迅速に取り組むことができた。今後も、相手意識をもった思いやりのある言動で、他者とつながる力の育成を図る。 ・【健康・体づくり】生活パワーアップ週間を活用し、正しい生活習慣を身に付けさせる。よりよい生活につながる自己調整力を継続して育成する。				

5 総合評価・次年度への展望	・【学力の向上】ドリルやプリント、タブレットPCを活用し、個人に合った苦手分野を克服することで、学習の知識・技能面を向上させる。 ・【心の教育】定期的に児童の気持ちの状態を把握し、いじめの早期発見、早期対応に向けて迅速に取り組むことができた。今後も、相手意識をもった思いやりのある言動で、他者とつながる力の育成を図る。 ・【健康・体づくり】生活パワーアップ週間を活用し、正しい生活習慣を身に付けさせる。よりよい生活につなげる自己調整力を継続して育成する。
----------------	---